

# 井川町の統一的な基準による財務書類（令和5年度 一般会計等）概要

令和5年度財政運営は、堅調な財政運営を行っている。

## ① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において町の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）	
1 固定 資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 町営住宅、地区集会所など	51億5,161万円	1 (1) 地方債 16億1,172万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	37億6,557万円	(2) 退職手当引当金 2億1,568万円
	(3) 物品、ソフトウェアなど	7,360万円	(3) その他の固定負債 0
	(4) 投資その他の資産	30億4,641万円	2 (1) 賞与等引当金 3,182万円
2 流動 資産	(1) 現金預金	3億1,772万円	(2) その他の流動負債 3億9,732万円
	(2) 基金、未収金など	5億512万円	負債合計 22億5,654万円
資産合計		128億6,002万円	負債及び純資産合計 128億6,002万円
			純資産の部（現在までの世代が負担した金額）
			純資産合計 106億348万円

## ④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、町がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	3億6,266万円
本年度資金収支額	△4,494万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	6億4,419万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△5億9,162万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	△9,752万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	0
本年度末資金残高（来年度繰越金）	3億1,772万円

## ③ 純資産変動計算書

町の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	87億2,584万円
本年度変動高	18億7,764万円
△純行政コスト	△132億3,054万円
財源 (町税、地方交付税、 国・県補助金)	31億5,222万円
資産形成への充当	0
その他	0
本年度末純資産残高	106億348万円

## 町の資産と負債の状況

- 住民1人当たりの資産と負債残高**（令和6年1月1日現在人口 4,310人）  
資産 = 298万円 負債 = 52万円
- 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 82.5%**  
社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】
- 有形固定資産減価償却率（資産の老朽割合）・63.0%**  
償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】  
※ 令和5年度末現在：償却資産取得価額等：203億7,541万円 減価償却累計額：128億3,159万円
- 負債比率（純資産に対する負債の割合）…… 21.3%**  
この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

## 令和5年度財政運営の総括

- 業務活動収支 6億4,419万円 ⇒ 堅調な財政運営**
  - 投資活動収支 △5億9,162万円（基金積立、資産形成）**
  - 財務活動収支 △9,752万円（将来世代の負担の軽減）**
- ①～③の合計である令和5年度の資金収支は △4,494万円  
前年度資金残高との合計は 3億1,772万円

## ② 行政コスト計算書

町の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	30億4,041万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	6億4,008万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	11億9,354万円
その他の業務費用 支払利息など	2,743万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	11億7,936万円
経常収益	1億3,438万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	29億603万円
臨時損失 災害復旧費など	103億3,263万円
臨時利益 資産売却益など	812万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	132億3,054万円

### ● 4つの財務書類の公表について

町民の皆さんに町の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しています。

### ● 財務書類作成に当たって（効果）

財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成されています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られています。

# 井川町の統一的な基準による財務書類（令和5年度 全体会計）概要

令和5年度財政運営は、堅調な財政運営を行っている。

## ① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において町の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）		
1 固定 資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 町営住宅、地区集会所など	60億9,557万円	1 固定 負債 (1) 地方債 27億3,833万円	
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	76億407万円	(2) 退職手当引当金 2億1,568万円	
	(3) 物品、ソフトウェアなど	2億4,865万円	(3) その他の固定負債 15億7,705万円	
	(4) 投資その他の資産	32億735万円	2 流動 負債 (1) 賞与等引当金 3,502万円	
			(2) その他の流動負債 6億2,739万円	
			負債合計 51億9,347万円	
2 流動 資産	(1) 現金預金	6億2,004万円	<b>純資産の部（現在までの世代が負担した金額）</b>	
	(2) 基金、未収金など	6億40万円	純資産合計	131億8,262万円
資産合計		183億7,608万円	負債及び純資産合計	183億7,608万円

## ④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、町がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	6億9,038万円
本年度資金収支額	△7,034万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	8億3,084万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△6億6,645万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	△2億3,474万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	0
<b>本年度末資金残高（来年度繰越金）</b>	<b>6億2,004万円</b>

## ③ 純資産変動計算書

町の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	112億9,314万円
本年度変動高	18億8,947万円
△純行政コスト	△201億902万円
財源 (町税、地方交付税、 国・県補助金)	45億728万円
資産形成への充当	0
その他	0
<b>本年度末純資産残高</b>	<b>131億8,262万円</b>

## 町の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高（令和6年1月1日現在人口 4,310人）

資産 = 426万円 負債 = 120万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 71.7%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】

③ 有形固定資産減価償却率（資産の老朽割合）・55.3%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】

※ 令和5年度末現在：償却資産取得価額等： 277億1,541万円 減価償却累計額： 153億3,536万円

④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）…… 39.4%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

## 令和5年度財政運営の総括

① 業務活動収支 8億3,084万円 ⇒ 堅調な財政運営

② 投資活動収支 △6億6,645万円（基金積立、資産形成）

③ 財務活動収支 △2億3,474万円（将来世代の負担の軽減）

①～③の合計である令和5年度の資金収支は △7,034万円

前年度資金残高との合計は 6億2,004万円

## ② 行政コスト計算書

町の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	49億598万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	7億3,400万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	17億8,272万円
その他の業務費用 支払利息など	8,998万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	22億9,928万円
経常収益	5億9,503万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	43億1,094万円
臨時損失 災害復旧費など	158億763万円
臨時利益 資産売却益など	955万円
<b>純行政コスト</b> (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	<b>201億902万円</b>

### ● 4つの財務書類の公表について

町民の皆さんに町の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しています。

### ● 財務書類作成に当たって（効果）

財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成されています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られています。

# 井川町の統一的な基準による財務書類（令和5年度連結会計）概要

令和5年度財政運営は、堅調な財政運営を行っている。

## ① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において町の資産と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）		
1 固定 資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、 町営住宅、地区集会所など	65億6,680万円	1 固定 負債 (1) 地方債 27億8,995万円	
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	76億423万円	(2) 退職手当引当金 3億8,812万円	
	(3) 物品、ソフトウェアなど	2億6,973万円	(3) その他の固定負債 16億5,487万円	
	(4) 投資その他の資産	33億8,990万円	2 流動 負債 (1) 賞与等引当金 4,293万円	
			(2) その他の流動負債 6億3,528万円	
			負債合計 55億1,115万円	
2 流動 資産	(1) 現金預金	6億4,578万円	純資産の部（現在までの世代が負担した金額）	
	(2) 基金、未収金など	6億5,559万円	純資産合計	136億2,089万円
資産合計		191億3,203万円	負債及び純資産合計	191億3,203万円

## ④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、町がどのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高（繰越金）	7億2,634万円
本年度資金収支額	△7,694万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	8億6,454万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△7億1,295万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	△2億2,853万円
本年度末歳計外現金残高（預り金）	56万円
本年度末資金残高（来年度繰越金）	6億4,578万円

## ③ 純資産変動計算書

町の純資産（資産から負債を引いた残り）が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	118億6,214万円
本年度変動高	17億5,874万円
△純行政コスト	△214億1,766万円
財源 (町税、地方交付税、 国・県補助金)	58億739万円
資産形成への充当	0
その他	0
本年度末純資産残高	136億2,089万円

## 町の資産と負債の状況

① 住民1人当たりの資産と負債残高（令和6年1月1日現在人口 4,310人）

資産 = 444万円 負債 = 128万円

② 純資産比率（今までの世代で負担済分）…… 71.2%

社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合（社会資本形成の世代間比率）【純資産／総資産】

③ 有形固定資産減価償却率（資産の老朽割合）・55.4%

償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額／取得価額】

※ 令和5年度末現在：償却資産取得価額等： 288億2,346万円 減価償却累計額： 159億7,192万円

④ 負債比率（純資産に対する負債の割合）…… 40.5%

この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。

## 令和5年度財政運営の総括

① 業務活動収支 8億6,454万円 ⇒ 堅調な財政運営

② 投資活動収支 △7億1,295万円（基金積立、資産形成）

③ 財務活動収支 △2億2,853万円（将来世代の負担の軽減）

①～③の合計である令和5年度の資金収支は △7,694万円

前年度資金残高との合計は 6億4,578万円

## ② 行政コスト計算書

町の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	62億4,704万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	8億5,861万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	19億5,820万円
その他の業務費用 支払利息など	1億1,581万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	33億1,442万円
経常収益	6億2,746万円
純経常行政コスト (経常費用－経常収益)	56億1,958万円
臨時損失 災害復旧費など	158億763万円
臨時利益 資産売却益など	955万円
純行政コスト (純経常行政コスト+臨時損失－臨時利益)	214億1,766万円

### ● 4つの財務書類の公表について

町民の皆さんに町の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しています。

### ● 財務書類作成に当たって（効果）

財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成されています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られています。